

夜行列車

夜空を列車が走り出す
深夜のホームには汽笛だけが鳴り響いていた
なぜか心が踊り出す
しな垂れ合うカップルの間をすり抜けて
酔っ払いのうわごとを搔っ攫って
吹き抜ける風に乗ったこの焼けた匂いだけが
夜空を走る確たる証拠だ
そのまま影さえも置いていくスピードで
暗闇を駆け昇って行く
この特別列車に不似合いな
壊れた靴なんて放り捨てよう
代わりにあの大きな月を叩いて
丈夫なブーツを作ろう
きつと噂の赤い靴より、厄介だろうけれど
すべてを蹴散らす力をくれる
もう二度とあの道なんて歩く事がないように
さあ今すぐに！行ってしまいう前に…！
切符の買い方は知らないけれど。

藍